

■ 沼津市都市計画マスタープラン 第2回委員会における指摘事項と作業内容

	指摘事項	作業内容
<p>視点② 安全・安心の まちづくり</p>	<p>○東椎路の防災拠点については、防災拠点としての機能を発揮するための対策をした上で位置づけるべき。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東椎路は、地震の揺れや液状化が周辺地より大きいと想定されているのではないか ・周辺幹線道路等のインフラには投資をしているようだが、拠点機能を担う流通施設等も機能を発揮するための耐震、液状化等の対策をすべき <p>○安全・安心のまちづくりは地区別に対策の方向性を示すべき。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区ごとに、災害リスク、被害を受ける市街地等の状況が違う ・地区ごと、地震の揺れや津波など災害リスクごとに、現状、課題、対策を整理し、防災対策のガイドラインとして、次に打つ手を検討できるようにしたほうがよい 	<p>「地区別防災カルテ」を作成し、地区ごとの課題と対策を整理</p>
<p>視点④ 中心市街地と 各拠点の連携</p>	<p>○生活圏を守る生活拠点を重視すべき。その上で、都市構造や拠点間の連携、生活拠点で不足する機能等があるなら、地域拠点を位置付けてはどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・20年後も人口密度がある程度確保される沼津市では、今ある生活圏を守ることが重要 ・そのためには生活圏ごと日常生活を想定した上、生活拠点を位置付け、必要な機能を論ずるべき（生活圏＝中学校区となるのかは議論が必要） ・仮に駅を地域拠点と設定し機能を集約しても、その背後にある生活圏全体の利便性は高まらずに無駄な投資となる可能性もある ・まずは生活拠点を検討し、拠点同士の関係や、都市構造上の役割等を整理し、必要であれば地域拠点を位置付けてはどうか 	<p>「地区別カルテ」を作成し、地区ごとの人口（年齢別）、施設分布状況と地域の特性を整理</p> <p>「地域拠点の考え方」を作成し、地域の特性にあった地域拠点の考え方を整理</p>